

【優秀賞】

「私たちが受け継ぐ北方領土」

中標津町立計根別学園

9年 向井 美生

北方領土問題。日本固有の領土である北方領土を取り戻すために、共同経済活動の協議、訪問交流事業などが行われてきました。では、北方領土返還までにかかるべき時間はどのくらいでしょうか。また、かけられる時間は、どのくらいでしょうか。

私は一昨年の九月に行われた北方領土訪問事業に参加しました。そしてその内の二日間、択捉島を訪問しました。

訪問の中で、日本人の暮らした家などの跡が少しも残っていない街並みを見て、驚きとなんとも言えない悔しさのような、悲しさのような気持ちがこみ上げてきました。もっと日本人の暮らした跡があると思っていたのに、ロシア人が建てた新しい住居や公共施設ばかりがたくさんあったのです。日本の土地なのに、ロシアの街のようで、やるせない気持ちになりました。

また、第二次世界大戦の勝利を記念するかのような広場もありました。そこには、戦争で成果をあげた人が北方領土に住んでいたことを記したものもありました。少し新しい感じのするその広場を見て、日本は戦争を「負の遺産」としているのに、ロシア側は逆なのかと感じました。私はそこで、『第二次世界大戦は正しかった。ソ連はこれにおいて勝利し、この土地を得た。だからここは、ロシアの土地だ！！』というようなロシア側の強い姿勢をずっしりと重く受け取りました。

これらのことを受けて、私は北方領土問題をじっくりと進めることの重要性が分かりました。ロシア側の強固な意志と日本との緊張した空気に、勢いで進めると争いになりかねない、と考えたからです。

しかし、帰ってきた後、テレビの記者会見で知った元島民の方の言葉に、じっくりと進めるべきだという私の意見は少し変わりました。

「残された時間は、もうゼロです！」

叫ぶような訴えが、この言葉に込められていると思います。私はこの言葉を聞いて、元島民の方の焦りを感じ、時間が無いことに気付かされました。確かに、元島民の方々の約三割しかご存命ではありませんし、平均年齢は約八十五歳と、もう待っていられる状況ではないことも確かなのです。こんなにも長い間故郷に帰れず、北方領土の返還を誰よりも強く願っている元島民の方々の思いを無視することはできません。ですから、早期の返還を求めることも重要なのです。

じっくり進めることと、早期の返還を求めること。まるで真逆の二つですが、どちらも重要なのでどちらかを捨てることはできないと思います。では、どうすればよいのでしょうか。

私は、私たち若い世代に何ができるか、考えてみました。そこで私が考えたのは、元島民の方々の経験を、忘れられないように私たちが受け継ぐということです。元島民の方は高齢化が進んでおり、このままでは、北方領土返還への意思そのものが薄れてしまうと思うのです。これでは、「早期の返還を求めること」も、「じっくりと進めること」も難しくなってしまいます。ですから、私たち若い

世代が北方領土問題を受け継いでいくことこそが重要だと思うのです。

私は、交流訪問事業に協力したり、ロシアの人が北方領土問題をどう捉えているのかを日本人に伝えたりする、領土問題の解決に向けた活動に将来参加したいと思っています。そのためにロシア語の勉強をしたり、情報をしっかりキャッチして自分の考えを持つようにしたりすることを今から始めたいです。そうすることで、私たち若い世代、その先の世代にも、北方領土問題の現状を伝えていこうと思います。

「北方領土問題を解決し、平和条約を締結する。」これが領土問題の最終目標です。私は若い世代が活発に活動するための種となって、北方領土の明るい未来をつくっていきます。